

# Management Club Report

Jun.2012/Vol.114

## Monthly Opinion 《今起こりうる失敗への防衛研究》

2か月続けて『歯科医院経営の失敗』について書いてきました。歴史に見る外交や軍事上の失敗、筆者のかつての失敗体験や歯科医院の過去の失敗事例などから、その本質はどこにあったのかを述べてきました。今回は『失敗研究』3部作の最終章として、現代の歯科医院が抱える失敗の危険因子は何かを探り、そのための防衛対策をまとめてみました。

また、多くの歯科医院が抱える共通の問題点である『女性の職場が抱える問題の独自性』と『人事考課制度』について、異業種からの提言を一つのヒントにできないかと思い、一般企業での体験談を寄稿してもらうことにしました。今回は三井物産OBの小林星二氏に健筆を奮っていただきました。

小林氏は若い頃、上司から「良い仕事をしよう」と言われて育てられてきたと言います。日本を代表する世界的企業が日々目指したものは「大きな仕事」や「凄い仕事」、「儲かる仕事」などではなく「良い仕事」だったことに新鮮な驚きを覚えました。「良い仕事」を心掛けることが結果的に組織を繁栄させることを改めて理解しましたし、一方では大企業の看板に胡坐をかくななどの戒めを説いているようにも思えました。

歯科医院の仕事は誰が考えても「良い仕事」です。しかし「良い仕事」という評価の上に、あるいは「医療」という看板の上に胡坐をかいてはいないでしょうか？本当に「良い仕事」をしようと日々診療に向かっているのでしょうか？スタッフが「良い仕事」と思えるような環境整備に心を砕いているのでしょうか？ただ単に「儲かる仕事」を目指したり、向こう受けを狙っただけの「軽い仕事」に終始したりしてはいないでしょうか。小林氏の体験や指摘は、今の歯科医院が陥る危険性の本質を言い当てているように思えてなりません。

1

### 戦史に学ぶ 『ミッドウェー海戦失敗の研究』

#### 重要な意味を持つミッドウェー海戦

前々回書ききれなかったところがありました。その補稿として追加の『戦史に学ぶ失敗の研究』を1つだけ述べておきたいと思います。かなり長くなりますので、「戦記ものもいい」と思う方は、6ページから始まる第2章『今、歯科医院に起こりうる失敗を未然に防ぐ』に進んでください。

6月5日は何の日がご存知ですか？そう問われて歴史的な出来事が起きた日であることを知る人は当事者か当事者の遺族を除いてまずいないと思います。1942年（昭和17年）という年代を加えると「ん？あれかな？」と目星を付ける人はいると思いますが、それでも正解を言える人間は、私のように『戦史検定』を受けて“小隊長認定”を取るようなごく一部のマニアックな人間だけでしょう。

かの戦争中の出来事で記憶すべき日がいくつかあります。12月8日開戦。8月6日